

主要科目の目標・特長(大学院 外国語学研究科 英語コミュニケーション専攻)

カテゴリー	授業科目の名称	目 標	特 長
〈共通科目〉	Academic Studies in English	The goals of this course are to develop critical reading, writing, and discussion skills, to learn to analyze and critique academic papers, and to develop skills for academic presentations.	Upon completing the course, students will understand how to organize an academic paper (structure, citations, references), and will be able to express their opinions in writing and discussion and to deliver presentations based on their research.
〈共通科目〉	Academic Writing in English	The goals of this course are to develop academic writing skills to summarize and respond to academic readings, write coherent thesis statements, formulate strong research questions, and write academic papers.	Upon completing the course, students will be able to find and summarize the main ideas in academic essays, write short, academic research papers and understand how to use MLA and APA citation styles.
〈国際協力〉	ジェンダーと開発研究	開発におけるジェンダー視点とは何かについて理解し、特に主要な開発課題において、どのようなジェンダー課題があるか理解する。開発協力の歴史的展開の中で、どのようにジェンダー課題が取り組まれてきたか理解する。	本科目では、開発課題の中で、どのようなジェンダーに基づく課題があるのか、その要因をジェンダー視点で分析する。具体的には、教育、保健医療、経済活動、農業分野の開発課題を取り上げ、課題、要因、これまでの取り組みについて学ぶ。また、人身取引、FGM や名誉殺人、紛争下での暴力など女性に対する暴力の課題についても、ジェンダー視点で分析する。また、ジェンダー平等に向けた国際的な取り組みについても学ぶ。
〈国際協力〉	社会開発研究	経済的な開発だけが開発ではないことを理解し、保健医療や教育、貧困対策のような社会開発の面も開発において重要であることを学ぶ。社会開発の基礎的知識を身につけ、社会開発にはどのような課題があり、どのように取り組まれてきたか理解する。	本科目では、開発課題の中で特に社会開発を取り上げる。第二次世界大戦以後の開発協力の歴史の中で、どのように社会開発が注目されるようになったか、経済開発との比較で学ぶ。歴史的経緯を学んだうえで教育、保健医療、感染症対策、環境問題、難民への支援、マイクロファイナンス、ソーシャルビジネスなどの課題を取り上げ、その要因と現在までの取り組みについて学ぶ。
〈国際ビジネスコミュニケーション〉	国際ビジネス研究 I (事業戦略論)A	急速に進むグローバル化するビジネスで勝ち抜くためのグローバルビジネス戦略とマーケティング戦略についての研究を行う。具体的には、以下の5点について、履修する学生が学ぶ。 1. 適切な事業戦略立案に必要とされる competitive dynamics (競合環境) の理解 2. 適切な事業戦略立案に必要とされる自社事業の理解 3. 適切な事業戦略立案に必要とされる顧客の理解 4. 企業の業績評価 5. 日本企業のグローバル戦略	本科目では、左記の5点に関して、履修する学生が、business strategy (事業戦略) とマーケティングの分野における主たる論点を理解し、自分の言葉で解説することができることを到達目標とする。また、理解の証として、それぞれの論点における具体的な企業事例についても、複数の適切な例を挙げて説明できることも併せて到達目標とする。

〈国際ビジネスコミュニケーション〉	国際ビジネスコミュニケーション研究Ⅰ(異文化理解)A	異文化コミュニケーション及び異文化マネジメントの学問的アプローチを使って、事例を議論し、分析する。異文化コミュニケーション及び異文化マネジメントの基礎概念、理論を理解し、実際の事例に応用できるようになることを目指す。	本科目では、学生が以下に挙げる2つの内容を達成することを目標とする。 (1) 文化的価値観、コミュニケーション理論、非言語コミュニケーションに関する論文を読み、理解することができる。 (2) 異文化コミュニケーションの諸理論を理解し、それらを使って身の回りの事象を議論できるようになる。
〈英米文化理解〉	アメリカ研究Ⅰ(政治/社会)A	アメリカ社会はいろいろな問題をかかえ、その解決をめざして、市民が対立と合意のプロセスをくりかえしている。このプロセスに、いろいろな団体や政党はどのようにかかわるのか？ 議会、大統領、最高裁はそれぞれどのような役割をはたすのか？ そもそも合衆国憲法は問題の解決に役立つのか？ このコースにおいて、履修者は英文記事や英文統計を通して、これらの基本的な問題に答え、アメリカ社会の根本を理解することを目指す。	履修者は以下の5つのスキルや知識を身に付けることができる。 (1) 実践的な英語力 (2) 基本的なスキルとして—英語の新聞記事など、かたい英語を読み、そこから情報を得る。The New York Times や The Washington Post など英字新聞の記事に慣れる。 (3) 得た情報に基づいて、簡潔な日本語で説明する。 (4) 基礎的な知識(副産物として)—現代アメリカにおける政治、経済、社会の仕組みを知る。 (5) とくに英語教員をめざす履修者は英文記事や英文統計を将来の教材の候補に接することができる。またオンラインの報道メディアの情報を moodle を通して提供することで、ICT を用いた指導法に接することができる。
〈英米文化理解〉	イギリス研究Ⅱ(文学/文化)A	イギリス文学・文化研究の手がかりとして、シェイクスピア演劇の原文を中心に精読し、英語コミュニケーションについて学習する。同時に作品や文化に関する解説や分析の英文も読みながら先行研究や資料を探す方法を学び、その資料の概要をまとめる力を習得してほしい。各自で論旨を組み立て、先行研究をふまえて客観的な根拠を示しながら論文を作成する力を養うことも目指したい。作品のあらゆるアダプテーションに触れ、グローバルに英語を学び、英語を教えることを視野に入れた学習も実践する。イギリス文学・文化研究の基本的な知識の確保と、それによる各自の研究の方法と方向性の確立を目指す。	本科目では、学生が以下に挙げる4つの内容を達成することを目標とする。 (1) イギリス文学・文化のテキスト及びその概説、分析の英語を的確に読解できる。 (2) イギリス文学・文化についての論考を読み、内容をまとめ、分析方法のスキルを身に付ける。アダプテーションの多様性、意義についても、英語の学び、教え方の視点から学ぶことができる。 (3) 参考資料を適切に収集し先行研究としてふまえて、論理的な構成によるエッセイを客観的な根拠を提示しながら作成することができる。 (4) 1～3によって主としてイギリスを文学・イギリス文化をテーマとする研究の手がかりを習得できる。イギリス文学・文化研究の基本的な視野と基礎力を確保し、各自の研究を進める力を身につける。それによって各自の今後のグローバルな社会的活動における英語コミュニケーション力を修得できる。
〈英語教育・英語学〉	英語教育学研究 A	授業をデザインする上で大切な3要素(目標・方法・評価)を、ID (instructional design) 研究者の Robert F. Mager は、1. Where am I going? 2. How do I know when I get there? 3. How do I get there? としている。本授業ではその中で、「1」と「3」の部分に焦点をあて、受講生が英語の授業を構想、実施、改善していく教育工学的アプローチによる授業研究法(Lesson Study)の理論と実践について学ぶことが授業の目的である。尚、「2」については、英語教育学研究Bで取り上げる。	本科目では、学生が以下に挙げる3つの内容を達成することを目標とする。 (1) 教育工学における Lesson Study の研究理論と研究法の習得 (2) 英語の授業をデザインし、評価・改善できる実践力の習得。 (3) 英語の専修免許取得を目指す学生は、(1)新学習指導要領に示された中高英語教育の目標と指導内容等を十分に理解し、2)新学習指導要領にそった授業デザイン力及び、学習評価力の習得。

<p>〈英語教育・英語学〉</p>	<p>第二言語習得研究 A</p>	<p>第二言語習得の観点から、言語がどのように学ばれるか考える。目標言語として、英語学習に焦点を置く。また、日本の英語学習の現状をふまえて、目標言語が一般に話されていない環境での外国語学習環境での英語学習である English as a Foreign Language (EFL) に焦点を置く。</p>	<p>履修者は以下の6つのスキルおよび知識を身につけることができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 第二言語習得の代表的な第二言語習得の理論や研究の知識を身につけ、説明することができる。</li> <li>(2) 第一言語と第二言語の学ぶプロセスの違いを理解し、説明することができる。</li> <li>(3) 外国語として英語 (English as a Foreign Language: EFL) と第二言語 (English as a Second Language: ESL) の違いを理解し、説明することができる。</li> <li>(4) 外国語学習者や外国語教員が第二言語習得の知識をどのように応用するべきか、考え、説明することができる。</li> <li>(5) 受講生の興味に沿った、第二言語習得の文献を探索することができる。</li> <li>(6) 第二言語習得の文献を理解し、分析し、批評することができる。</li> </ol>
-------------------	-------------------	---	---